

と、陣容を整へ、阪神合會の兼正、米次氏外数名の事、援を經て活氣を呈し、策應中であるが、會社側には頗る強硬な態度を待し、世子工場長が大坂から帰來と同時に、議談の結果、午前十時兩工場職工約百名に對し、解雇の通知を配達、證明付で發送した。右は、秀く、總同盟加入者で、成績不良のものも、豫め、職首せんとしてゐたので、此機會に、断行したるものらしい。會社側では、更に第二回の整理するといつてゐるから、争議は、或は悪化するやも、知れず、尚、争議、團、に、交渉開始は、午後一時三庄工場職工代表が先づ會見することになつた。

五月二十七日 大阪毎日新聞記事

會社が出した二條の提案を蹴る職工の氣勢昂る因島争議

備後因島の勞働争議は頗る平靜に持久戰の経過を辿つてゐる。因島工場及三庄工場職長代表十八名は、廿五日午後七時、世子工場長と第三回の會見を遂げた。結果、世子氏は左の覺書を手交した。

(一)従來の面目を一新せしめ、専ら能率増進を計ること

(二)再び斯かる不祥事を惹起せざる相互に努力すること

右の條項を資格者(職長等)之を保證し得るにおいては、能率増進の程度に應じ、昇級せしむ

資格者代表は、これによつて、職工の勸説を始むると同時に、同夜、争議團幹部の意見を徴したが、明答を與へず、職首職工を出した。今日直にこれに應ずる模様なく、交渉を繰返すものと見られ、争議團では、廿五日午後、土生所大正座で、勞働演説會を開き、目下同座へ、乘込中の浪佐節の座長が、職工に同情して、義士銘々傳の「即を語り大に士氣を鼓舞する」ところがあつた。尚、廿六日正午から三庄所常磐座で、同様演説會を開き、大阪聯合會の兼正、米次氏外十数名、熱辯を揮ひ、士氣執力を挙げた。土生所當局は、有志と語り、廿五日午後、世子工場長と會見、職首職工を復職せしむるならば、無條件就業のことに盡力したしと申入れたが、職長等の調停如何を俟つて、更に善處することとを約し、引取つた。職長等の談によると、現在、勸務